

9 国宝修繕

前年（明治三十一年）に引き続き、本年の年報にも依頼製作の記載がない。これは美術学校騒動のさなかで該事業が批判されたことにより、学校当局が自粛して受託を差し控えたためと考えられる。しかし、翌三十三年以降は再び旧来どおりに事業が再開される。この国宝修繕も三十三年から三十四年にかけて同事業の一つとして行われたもので、三十二年においてはその準備のみが行われたのである。

関連事項

① 職員任免その他

明治三十三年
一月二十三日 文庫掛橋爪正芳は教務掛を、会計掛高田松男、齋藤

一男、大島盛造は教務掛兼務を命ぜられる。

二月十三日 教授尺秀三郎は文部省視学官兼任を命ぜられる（同

月十七日普通学務局勤務）。

十八日 天草神来助教となる。

三月六日 伊藤雄次郎雇を命ぜられる（日給九十銭）。

九日 長原孝太郎本官（理科大学助手）を免ぜられ本校助教授専任となる。

十五日 大沼親光雇を命ぜられる（文庫掛）。雇文庫掛主務森

川清依願解雇。

二十七日 会計掛書記高田松男文庫掛主務兼会計掛を命ぜられる。

四月八日 教授尺秀三郎非職を命ぜられる（六月二十八日奈良県

視学官となる）。

十日 嘱託羽田禎之進助教となる。

十四日 書記野田義守歳入歳出外現金出納官吏を命ぜられる。

五月 和田英作（無給教場助手）渡仏のため辞職。

二十六日 高橋昌長雇を命ぜられる（会計掛）。

三十一日 嘱託黒川真頼病氣（中風）につき依願解嘱。

六月二日 助教小坂力松（象堂）病死。

三日 教授香川勝広文官分限令により休職。

十四日 嘱託森林太郎（鷗外）十二師団へ転任につき解嘱。

慰勞金百円贈付。

二十三日 帝国博物館技手小杉楹榎本校教授兼任を命ぜられる。

三十日 大沢三之助依願解嘱（同年中入隊）。

七月七日 岩村透は西洋美術史授業を、瀧精一は美学授業を（各報酬一ヶ年三百円）、武田五一は図案科建築裝飾史及び用器画法授業を（一ヶ年四百八十円）嘱託される。

歴書では七月四日）
十七日 塚本靖渡欧のため解嘱される。

八月三日 橋爪正芳依願解雇。

四日 増井兼吉雇を命ぜられる（月俸十円。教務掛兼庶務掛）。

二十一日 川端玉章、高村光雲、黒田清輝、長沼守敬、浅井忠、石川光明、久米桂一郎、合田清、大村西崖ら教員はパリ万国博覧会出品物美術製作品鑑査官を命ぜられる。